

朱色

梅雨

六月のゆうぐれに 気重なる用事の
みちをゆく
道ばたは ツツジの垣根に
ふちどられている
ツツジで 思い出す子がいた
あの子は元気かな、元気でいてほしい
心がすこしかげったので
もうひとり ツツジで思い出す人を
思った
写真を 皆で撮るといつも笑顔の
板画家さん
ちよつと 勇気がでてきた
思いうかべたふたりは 全然違う人どうしだけど
どこか 似てる
二人は ツツジに好かれている
垣根を曲がる
用事に向かっっていくわたしは
ツツジのように
何気なくあたたかく
いられるかな？